

□議員名：大井 淳一郎

1 アルコール依存症対策について

論点	アルコール依存症に対する本市の取組みと支援策は。
回答	県が実施している講演会等の周知やポスター掲示等により普及啓発に努めている。また、自助グループの活動に対して共催を行うことにより、活動しやすい環境整備に努めている。今後は予防にも力を入れていき、切れ目のない支援を行っていききたい。

論点	ホームページや広報に依存症の特集を載せ、周知してはどうか。
回答	県内の先進地、特に近隣の宇部市や下関市などの事例を参考にして取り組んでいきたい。

論点	依存症の背景にある心の病、悩みの種に気づく相談体制が必要だと考えるが、実態はどうか。
回答	現在も福祉部内で横断的な相談体制をとっている。引き続ききめの細かい、個々の実情に応じた相談体制を行っていききたい。

2 土地に関する諸問題について

論点	市内には借地上に公共施設や駐車場が整備されている箇所が点在している。借地料を払い続ける状況は好ましくなく、解決すべきだが、その後の進捗状況は。
回答	その後、管財課において公共用の借地について全庁的に調査をした。今後土地を借り続けるのか、購入するのか、返還するのかなど利用形態については、まずは担当課で判断すべきものとする。

論点	宇部市から購入した大学用地や大学周辺地区に細長く存在する部分を本市域に編入すべきだが、その後の進捗状況は。
回答	今年の2月に宇部市と協議を行ったが、相応の理由がなければ難しいと言われた。現在の市境の状況が住民生活等に著しく支障をきたすといった事情がない限り、現段階での交渉の進展は難しい。

3 薬学部校舎 A 棟建築主体工事の工期遅延問題について

論点	工期遅延の原因は何か。
回答	当初から適切な工期が確保できていなかったことに尽きる。議会の指摘どおり、当該事業規模に対する市の推進体制が十分でなかったことも要因である。

論点	A 棟と B 棟で適切な工期が異なるのか。
回答	A 棟、B 棟ともに適切な工期は 15 カ月と考えていた。

論点	予定どおり 12 カ月半で完成させた B 棟の請負業者の立場はどうなるのか。
回答	適切な工期をとっていない中、当初の契約どおり工事を完了してもらったことに感謝を申し上げる以外ない。

論点	白井前市長が発言したとされる「工期が遅れてもペナルティは科さない」という点について引き継ぎはあったのか。
回答	口頭でも文書でも引継ぎはなかった。

論点	引継ぎがなかったのであれば、行政の継続性もなかったのでは。
回答	本来であれば引継ぎがあつての継続性であるが、前市長から話を聞く中で、過去にそのような事実があったということが発覚した。当時の市長としての発言であり、継続性はあると考えている。

論点	今後の検証の過程で、市、請負業者と前市長の三者が協議すべきではないか。
回答	ある時期をもってしっかり検証したい。その手法については皆様の知恵を借りながら検討していく。

<借地に建てられている公共施設、駐車場（抜粋）>

名称	地代(年間:円)	部署
JR小野田駅前駐輪場	810,000	都市計画課
下水道管理設用地	84,600	下水道課
津布田保育園運動広場など	223,894	こども福祉課
埴生小学校等駐車場用地	113,184	教育総務課
津布田小学校用地	535,270	教育総務課
漁民アパート用地	618,420	農林水産課
市営住宅(大喜園)用地	421,616	建築住宅課
厚陽団地入居者用駐車場	66,000	建築住宅課
厚陽公民館用地	276,395	社会教育課
オートレース場駐車場	9,190,640	公営競技事務所

<理科大周辺の市境>

